

# 日本を「資源大国」に変える プラスチックのリサイクル事業

## 近江物産



近江物産(滋賀県東 市大橋七四一五、一〇七七―五五三一六一)は、十月十九日(二)まで滋賀県立長浜ドームで開催された「びわ湖環境ビジネスメッセ」で、同社が展開するプラスチックのリサイクル事業を紹介し、来場者の注目を集めた。

日本は生産大国でありながら、資源はもともと乏しいため「資源を循環させる」ことが製造企業に託された使命、とい

う考えから同社ではプラスチックマテリアルリサイクルに取り組み、資源を循環させることと資源に乏しい我が国を「資源大国」に変える。同社では、一度役目を終えた廃プラスチックを本来の素材の機能を損ねずにリサイクルするた

め、国内の自社場による一環再生システムでリサイクルを行う。自動車の内装の素材などとして普及している汎

用樹脂であるポリプロピレン(PP)の再生などを主力に事業を展開。自動車用途を視野に入れ、リサイクルプラントに2軸湿練押出設備を導入するなど注力している。

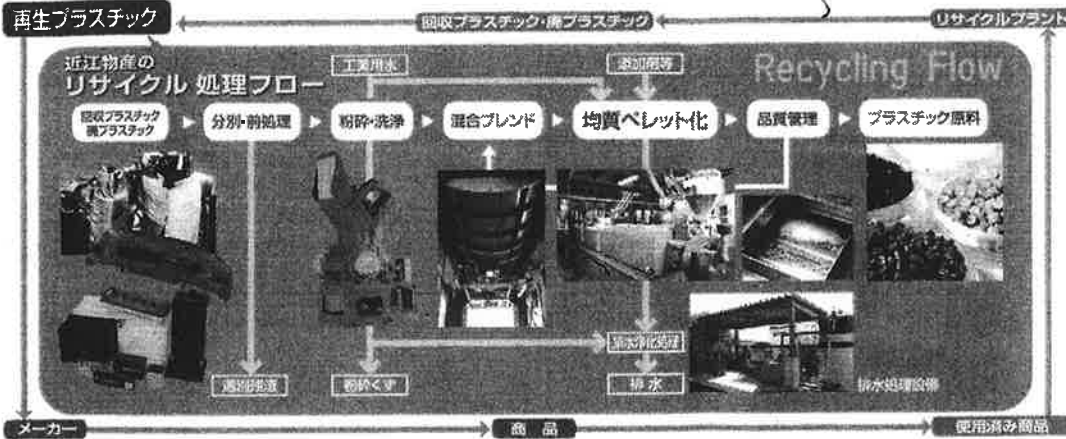
リサイクル処理は、①廃プラスチックの回収②分別・前処理③粉碎・洗浄④混合ブレンド⑤均質ペレット化⑥品質管理⑦プラスチック原料にリサイクル完了―という工程で実施。(図①参照)

45年間の長きにわたり一貫して再生プラスチック業界をリードする同社ではこうした技術革新を続けた結果、年間約2万吨にもほるリサイクル実績を誇り、国内シェアの約1割を占めるまでに業容を拡大している。

同社こうした取り組みは、CO<sub>2</sub>削減にも寄与。同社の取り組みによる高品位リサイクルプラスチックは、廃棄リサイクル段階までの温室効果ガス排出量をCO<sub>2</sub>に換算して表示するカーボン

フットプリント(CFP)に由来する、CFPPとが何である。宣言認定製品に業界として初めて認定された。また、再生PPは、近江グレードとして顧客より高く評価されるなど、環境保全に貢献する高品質な再生PPを安定供給で、今後も技術の研鑽に努めることとする。

<http://www.ohmi-bussan.co.jp>



プラスチックのリサイクルフロー (図①)